

歯周病治療におけるデブリドメントの重要性  
～歯科用マイクロスコープを用いた低侵襲な歯周病治療～  
Importance of debridement in the periodontal disease treatment  
～The minimal invasive periodontal disease treatment of using a dental microscope～

長尾歯科  
長尾大輔  
Nagao Dental Clinic  
Daisuke Nagao



### 「緒言」

近年、歯科用マイクロスコープを用いた低侵襲で審美性の改善を目的とした歯周形成外科について報告されるようになってきている。しかし、日常臨床では、審美性の改善以前に、中等度以上の歯周病を抱え、抜歯を余儀なくされるケースも多いように思われる。また、歯周外科を施す事により保存可能と判断されても、その方法は周囲不良組織の除去にとどまらず、健全歯周組織も含めすべて除去する切除療法が中心である。再生療法においても、依然として患者さんに対し、大きな外科的侵襲を加えているように思われる。そこで今回は、中等度以上の歯周病を抱えた歯に対し、GTR法、エムドゲイン、人工骨などを用いた、いわゆる再生療法を行わずに、歯科用マイクロスコープ下で低侵襲な歯周外科を施した結果、歯周ポケットやBOP等が改善され、さらにX線透過性に変化が見られたいくつかのケースを報告し、歯科用マイクロスコープを用いた歯周病治療の有効性について考察したいと思う。

### 「方法」

切除療法は患者さんに対する術中の外科的侵襲が非常に大きく、術後においてもさまざまな問題が残る。そこで今回は、“GSAF”(Gingival Sulcus Access Flap Micro Surgery)という歯科用マイクロスコープを用いた低侵襲な歯周外科を施したケースを紹介する。GSAFとは、鋭利なマイクロサージェリー用のメス等を用いて、歯肉溝内切開は入れるものの、縦切開等は入れず、必要最小限のフラップを形成し行う手術法である。歯科用マイクロスコープ下で直視または、マイクロサージェリー用のミラーを歯肉溝内に挿入し、内部を拡大視野で確認しながら手術を行うため、従来の歯周外科に比べ、余計な侵襲を加えず、血液供給も阻害しづらいので治癒も早く、患者さんに対し優しい手術法である。

### 「結果および考察」

歯科診療を行うにあたり、審美性の改善は非常に重要で、決して無視のできなものである。しかし、中等度以上の歯周病のケースに対しては、審美性の改善以前に、できる限りその歯を保存し、機能させる事を第一に行なわなければ、審美性を追求する事も何も始まらないと思う。1970年代から80年代にかけ多くの論文で、4mm以上の深い歯周ポケットが存在すると、適確に歯周治療を行うことは困難であるという報告がされているが、今回そのような歯に対し、歯科用マイクロスコープ

を用いた低侵襲な歯周外科” GSAF”を施した結果、いずれのケースにおいても、歯周ポケットやBOP等が改善され、X線透過性に変化が見られた。あくまでも、GTR法・エムドゲイン・人工骨などを用いた再生療法を施していないため、X線的に不透過性が増した部分は、限りなく患者さんご自身の歯周組織である可能性が示唆された。これは、歯科用マイクロスコープにより得られた多くの視覚的情報のもと、適確なデブライドメントが遂行できたために得られた結果であると考えられる。したがって、中等度以上の歯周病治療に歯科用マイクロスコープを用いる事は、外科的侵襲が少ないうえに、良好な結果が得られる可能性があるため、非常に有効であると考えられる。同時にGSAFは、拡大視野下であるとはいえ、深く暗い歯周ポケット内という限られた術野で行うオペのため、非常にテクニックセンシティブである。そのため、視軸と光軸のずれが生じるルーペでは適確に施すのは困難であり、広い可動域を有する歯科用マイクロスコープの使用、専用器材の準備、そして何より地道なトレーニングを続ける事が重要であると思われる。